

第二の問題だ。説いたマルクス説を措にとつて、資本主義が極度に發達して、國民の經濟生活を一手に握り、國民を二分して少數の資本家團と、大多數の無産者階級とを完全に對立させた後でなければ、社會主義は實現できぬ。こじつけるえせマルクス主義者が出て來た。かのえせ共產主義の宣傳に終始一貫して居つた修正派は、社會主義が歐羅巴に起るのは、資本主義が全世界を完全に征服した後でなければならぬ、隨つて社會主義の實現を早めるためには、先づ資本主義の勢力普及を圖る必要があるとて、労働階級が植民政策を援助する必要を説いたのである。或はブルジョア階級に、或は反革命軍に左袒して労働者の革命を挫かうとした露國のメンシウキ、及び其他のえせ社會主義者の主張は、露西亞では近代的の無産者が人口の大多數を占めてゐないから、社會主義を實行することは不可能だといふ事に盡きてゐる。此説はマルクス主義を機械的な、數學的な問題だ。考へた歐洲の社會主義から大喝采を博した。けれども此説が一顧にも値せぬことは、經濟的に高度の發達を遂げた獨逸のような國に於てさへ、ハインリッヒ・クノールも大學者が、此問題に對して斯様な(メンシウキ等の如き)態度を採るのは、無産者の數の多少ではなく、資本主義成熟の程度が社會主義へ推移する時期を決定することを知らぬ結果だといつて居るのでも分る。

然しながらクノールの説く資本主義成熟の時期といふ思想は、資本主義が一切の事業を社會化し、社會主義はたゞ據臆に答をつけるだけの用しかなないといふ結論を伴ふ危険がある。クノールは、資本主義の國家が一切の産業を獨占した時が、社會主義のために機熟した時で、そいふ準備がないうちに無産階級が政權を掌握することは出来ぬといふ説を信ずる結果、獨逸はまだ社會主義を實行するには早いと説くのである。けれども無産階級は國家からでなく、資本家から直接、トラスティ化され、大々的に合同された企業を承継してはならぬだらうか。勿論シウウのいふやうな、無智低能な山猿同然の資本家がボタン一つ押すだけで、何百萬の奴隷を手足のようにならぬのを待つてゐれば、無産階級が資本家に取て代るのは極めて容易な事業に相違ないが、さうなるまでの間、無産者が資本主義の結果としてのあらゆる悲惨、あらゆる屈辱を目をつつて忍んでゐられようか。資本主義より社會主義への推移が無産階級の自衛努力を必要とせしむるに、自然に、機械的に行はれるといふ説は、人類の歴史に矛盾した空想である。

社會が資本主義から社會主義へ移り始めるのは、國家が資本主義社會の壓迫に堪へ切れず、生命がけでその體を斷ち切らうとする其刹那である。資本主義が發達して、重要な産業部門、少くとも信用や運輸の事業が少數資本家の手に握られてゐる程度に達してゐれば、是に反抗して起つた労働者は、産業を自分らの手に收めることが出来るし、是非さう努めなければならぬ。無産階級は、その國の資本主義化の程度によつて、多かれ少かれ、自分達のために有利な經濟組織を造り上げなければならぬ。十分に資本主義化されて居らぬ國の場合には、無産階級は一切の財産を即時に國有にすることを望み、暫くの間は、既に集中的になつてゐる産業を管理するに止めて、其後徐々に他の産業——例へば農業の如き——をも社會化することに努めねばならぬこともあらう。露西亞の場合などは左様であつた。露西亞の場合には、工業労働者は確かに人口のうち少部分にすぎなかつたが、鐵工業、炭坑、揮發油、鐵道、及び電信等は少數資本家の手に集中し、少數の銀行に左右され、其等が全國農民の經濟生活を支配して居たのである。

資本主義が世界の大戦に依つて作つた堪へ難い状態は、露西亞の民衆を驅つて、ツァー及び資本主義の國家に對して叛逆させた。労働者は資本主義のために三年の間、死ぬ許りに血を流した農民の助けを藉りて、遂に政權を掌握した。そこで此權力をどう利用したらいかにいふ問題が起つた。人民の九割までが無産者になつた後でなければ社會主義は實現されぬといふ機械論者は、人民に對して、社會主義確立の不可能を信じさせようとした。けれども労働者が革命を擲つて資本主義に復讐しようとするれば、露西亞全國は極度の悲惨に陥るはかなかつた。資本家が再び權力を握つたならば、戦争の費用を労働者に負擔させ、労働者に負債を償却させた擧句、次の戦争に備へる軍費を絞り出すために、十二時間の労働をも強制したに相違ない。資本家は混亂した經濟界を整理しようとはせず、たゞその紊亂の結果を労働者に負はせに相違ない。共產主義的經濟組織とは、一般民衆の利益のために、明白な計畫に従つて一切の生産力を利用する組織である。然らば國家が戦争のために疲弊し切つた際に、労働者をして資本主義社會の——その破壊の——惨狀を脱れ出させる唯一の道は、共產主義の外に無いではないか。然るに無經驗な労働者には、國家管理の能力があるまいといふ杞憂のために、此有利な經濟組織確立の好機を逸することは、畢竟資本主義に逆戻りしよう